



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 交通ビル3階
TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
Eメール kenpyo@cy.tnc.ne.jp

24国民春闘本番

ストライキと仲間増やしで 結集強め春闘を勝利しよう!



スト構えた交渉で大幅賃上げを実現!

全医労が前進回答引き出し



静岡医療センター前での宣伝行動

国立病院の労働者らでつくる全日本国立医療労働組合(全医労)は昨年、全国ストライキ同様今年も3月1日にストライキを配置し、この間23年度賃金交渉を重ねてきました。2月29日の第3回交渉で、国立病院機構は、これまでの「常勤職員で基本給平均改定率1・

5%、平均改定額4290円」から「平均改定率2・9%、平均改定額8324円」とし、1次回答を大きく上回る前進回答を引き出しました。また、非常勤職員の経験加算制度創設については今回見送られました。今度も、今年度の賃金交渉で、引き続き24年

度の賃金改善の交渉を行うと確認し、妥結し3月1日のストライキは回避し宣伝行動を行いました。全医労の前編むつみ委員長は「昨年の全国ストと全国での宣伝行動、今年もストを配置して臨んだ全医労組合員の団結の力が機構を動かした。今度も交渉を引き出した。今後も職場の実態、さらなる賃金改善の必要性、国立病院の機能強化の必要性を訴えていく」としています。



講演する平松氏
子どもたちにもう1人保育士を
～生まれたての人権を守る私たち～
平松知子さん講演
講演にはオンラインと会場合わせ100名を超える人が参加しました。



浜松・パレード行進

大幅賃上げなどをアピールしながら繁華街をパレードへ。パレード後は「ケア労働者に賃上げを」のチラシを2人1組になって各戸ポストインに練り出しました。また同日開催された東部集会は30人が、西部集会は80人が参加し静岡市の決起集会と同様の内容で取り組まれました。

「賃上げの必要性」を掲げざるえないような「追い風」の春闘状況となっています。同時に、多くの労働者が「たたかう労働組合」や「ストライキ」に対して、期待を寄せ、声を上げることに希望をもちはじめています。ただ、財界・大企業や政府の賃上げ戦略は、決

して、すべての労働者の賃上げを図るものではありません。岸田政権の「三位一体の労働市場改革」での日本版ジョブ型雇用の促進などに見られるように、成果主義賃金を隅々にまで行きわたらせることなどが、その本質となっています。「労働の価値に見合った賃金の支払い」といって、すべての労働者の賃上げをめざすものではありません。今求められるのは、物価高騰分を上回るとか、昨年と比べて高いなどの水準が求められているわけではありませぬ。この四半世紀以上わたって下がり続けてきた実質賃金を取り戻す「歴史的な賃上げ」が求められていることを、私たち労働組合自身がしっかり踏まえ「企業の支払い能力からではなく、生活改善をめざす賃上げ要求」を握って離さず、躊躇せずに要求していくことが重要な情勢となつています。医療や介護・障がい分野の公的報酬のトリプル改定が4月に行われます。この間のたたかいで、診療報酬に史上初の「ベア2.5%分を見込んだ」と政府に言わせるなど、大

静岡県実行委員会(仮) 講演で平松氏は、今の保育の現状や良い保育をするために配置基準の変更が必要なこと、その運動に当事者としてかわることが大切、静岡でも多くの人たちと労働組合やイデオロギーの違いを超えて一点共闘の運動を作り上げましょうと話されました。運動の結果75年ぶりの配置基準が改善されました。しかし「経過措置として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない」と明記されています。

静岡県実行委員会(仮) 講演で平松氏は、今の保育の現状や良い保育をするために配置基準の変更が必要なこと、その運動に当事者としてかわることが大切、静岡でも多くの人たちと労働組合やイデオロギーの違いを超えて一点共闘の運動を作り上げましょうと話されました。運動の結果75年ぶりの配置基準が改善されました。しかし「経過措置として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない」と明記されています。

静岡市の青葉公園で行われた「24国民春闘静岡県決起集会」は、ときおり小雨がぱらつくなか実施され、全体で約100人の集会となりました。集会では、主催者を代表して静岡県春闘共闘会議の菊池議長が「昨年は20数年ぶりの大幅賃上げを勝ち取ったが、それ以上に物価が高騰し、実質賃金は下がり続けてい

る。大幅な賃金引き上げ、底上げを実現しなければ、低賃金や物価高騰から生活をまもることも、地域経済の活性化もありえない。誰もが納得できる賃上げにこだわって、団結権・ストライキ権を確立しながら粘り強く24国民春闘をたたかおう」と呼びかけ、各労組・団体からのリレートークでは参加者全体で「おう!」と答えていきました。その後、集会宣言を決議し、大幅賃上げなどをアピールしながら繁華街をパレードへ。パレード後は「ケア労働者に賃上げを」のチラシを2人1組になって各戸ポストインに練り出しました。また同日開催された東部集会は30人が、西部集会は80人が参加し静岡市の決起集会と同様の内容で取り組まれました。

24国民春闘は、3月13日回答集中日3月14日ストライキを含む全国統一行動日として、最大のヤマ場を迎えます。昨年の23春闘を皮切りに私たち静岡県評がストライキなどのたたかいを強めてきたこと、更には、そのたたかいが年末一時金をめぐるストライキなどで秋闘の中でも強められてきたことで、政府も、経営者側も、労働組合も「賃上げの必要性」を掲げざるえないような「追い風」の春闘状況となっています。同時に、多くの労働者が「たたかう労働組合」や「ストライキ」に対して、期待を寄せ、声を上げることに希望をもちはじめています。ただ、財界・大企業や政府の賃上げ戦略は、決

静岡県実行委員会(仮) 講演で平松氏は、今の保育の現状や良い保育をするために配置基準の変更が必要なこと、その運動に当事者としてかわることが大切、静岡でも多くの人たちと労働組合やイデオロギーの違いを超えて一点共闘の運動を作り上げましょうと話されました。運動の結果75年ぶりの配置基準が改善されました。しかし「経過措置として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない」と明記されています。

静岡県実行委員会(仮) 講演で平松氏は、今の保育の現状や良い保育をするために配置基準の変更が必要なこと、その運動に当事者としてかわることが大切、静岡でも多くの人たちと労働組合やイデオロギーの違いを超えて一点共闘の運動を作り上げましょうと話されました。運動の結果75年ぶりの配置基準が改善されました。しかし「経過措置として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない」と明記されています。

「歴史的物価高騰に見合った賃上げ・底上げ!」ストライキの力で労働組合の存在感を示そう!」と24国民春闘静岡県決起集会が、2月18日に静岡市と沼津市で、2月25日に浜松市で開催されました。春闘は本番モードに突入しました。



静岡：集会参加のみなさん

3.18東京高裁へは、バスいっぱいの参加者で

静岡県社会保障推進協議会 第30回定期総会開催



記念講演を行う 中澤秀一氏

2月23日ロッキーセンターにて静岡県社会保障推進協議会第30回定期総会が開催されました。中澤秀一氏が「生計費視点から全世代型社会保障を考える!」と題して講演を行いました。記念講演後の総会では事務局長の小高氏から活動の総括と今後の方針提起がありました。直前にせまった「生活保護基準引き下げ違憲訴訟(いのちのとりで裁判)」東京高裁第1回口頭弁論(3月18日)には大型バスをいっぱいにして原告団を励まそう!との提起がありました。

イデオロギーを越えた 一点共闘での呼びかけ
「子どもたちにもう1人保育士を」
静岡県実行委員会(仮) 講演で平松氏は、今の保育の現状や良い保育をするために配置基準の変更が必要なこと、その運動に当事者としてかわることが大切、静岡でも多くの人たちと労働組合やイデオロギーの違いを超えて一点共闘の運動を作り上げましょうと話されました。運動の結果75年ぶりの配置基準が改善されました。しかし「経過措置として当分の間は従前の基準により運営することも妨げない」と明記されています。

日本政府は

核禁止条約の批准を

3・1ビキニデー集会開催

被災70年ビキニデー集会開かれる原水協や実行委員会などによる3・1ビキニデーの集会が、2月28日から三日間にわたって開かれました。原水協シンポジウムと分科会、墓前行進、墓前祭、3・1ビキニデー集会が行われ、今年も、これまででの全国・世界の運動や新たな知見、訴えなどが紹介され、参加者の連帯と今後の展望を確認し合いました。



焼津市内を墓参行進

戦態勢」発言に抗議し、核兵器禁止条約締結の広がり、日本の参加を訴え、世論を喚起し「非核日本キャンペーン」の運動を大きくしていかうと確認し合いました。

国の推進政策は無謀

原発なくす静岡の会第11回総会

2月18日「原発なくす静岡の会」第11回総会が開かれました。代表の林氏から「一月に発生した能登半島地震の新たな知見を検証し、原発は日本のどこであつても危険であるとの世論をつくる活動が必要である」と挨拶がありました。講演で大島氏は「原発は他の電源に比べ危険でしかも高くコスト面でまったく見合わない。岸田政権が勧め



3.1集会のフィナーレ

80年代、欧米を訪問した時、核軍縮や核兵器凍結の声があつた、しかし今、核兵器禁止にまで発展し、隔世の感があるという発言も聞かれました。また、福島からは汚染水海洋放出について、ほかの方法があるのに合意を無視



講演する大島氏

職場の安全衛生を実現するために

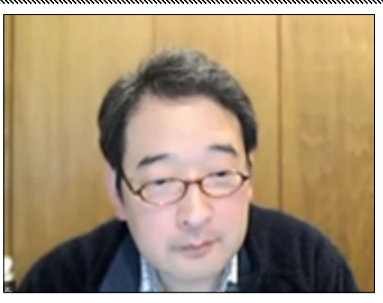
静岡県安全健康センター No. 100

深刻なPFAS（ペーファス）汚染
3月6日の朝日新聞によれば、有機フッ素化合物（総称PFAS、ピーファス）を以前使用していた静岡県清水区の化学工場が働いていた従業員の血液から高濃度のPFASが検出された。米国の学術団体による「健康被害が生じる濃度」の2.5倍の濃度という。PFASは、体に徐々にたまり、排出に時間がかかる。半減期は3年ほどという。この労働者は12年前から働いていて被曝したと考えられ、12年前には現在の16倍の超高濃度被曝であった可能性があると、原田準教授（京都大学・環境衛生学）は言う。日本ではPFASは、はじめ沖繩や横田の米軍基地から流出し、高濃度の泡消火器によるものとは分かれ、その後全国の自衛隊基地でも同様の泡消火器が使用されていると、大阪ではダイキン、清水では三井ケマーズフロプロダクツなど化学製品の製造でも広く使われている。

最賃引き上げの支援策

小企業では短期的な支援要望

静岡県労働研究所 No. 81



報告する村上氏

2月15日定例研究会が開催された「労働者の就業意識と中小企業の収益性―ネット調査の結果から―」

題して村上英吾氏（日本大学教授）が報告しました。労働者の就業意識において、不満があつた時の対応は次のようでした。
・退出（Exit）「他の仕事や好条件の企業に転職」約6割
・発言（Voice）「上司に相談」約5割「公的機関に相談や組合で団交」約3割前後
・忠誠（Loyalty）「上司や会社の判断に任せる」約6割
無視（Neglect）「我慢して改善を待つ」約6割「仕事の手を抜く」3割
就職前後の組合イメージについては、今回の調査と以前に行った労働総研の調査を比較しました。今回の調査（一般労働者対象）において労働組合へのイメージは就職前より就職後の方が、若干好意的なイメージが増えますが、組合加入・未加入ともに大きな変化はありません。
それに対して労働総研の調査（全労連加盟組合員対象）は、就職前より

「ロシアの戦略核力は臨

地震での避難は困難

浜岡原発永久停止訴訟第38回口頭弁論

3月4日、静岡地方裁判所浜松支部で、浜岡原発永久停止訴訟の口頭弁論が



ありました。原告側として平野弁護士が、準備書面42の補足説明をしました。平野氏は、能登半島地震の甚大な被害状況を受けて、浜岡原発の安全上の不備・欠落について2点主張しました。一つ目は、避難計画の不備・欠落について。二つ目は、浜岡原発において想定される南海トラフ地震により発生する地震変動等に対する安全上の不備・欠落についてです。

生活・法律相談

■ 労使トラブル・解雇・賃金不払い・セクハラ・パハラ・借金問題・教育問題など、受け付けます。
■ 労働弁護士の紹介もいたします。

○ 受付 国鉄労働会館静岡地方部
☎ 054 (285) 4426
○ 相談場所 静岡合同法律事務所
○ 相談員 阿部浩基弁護士

貸会議室

のご予約・お問い合わせは
一財）国鉄労働会館静岡地方部へ
TEL 054 (285) 4426 FAX 054 (283) 6835

★ 静岡駅南口から徒歩1分
定員14名・30名（各1室）
少人数の打合わせ・会議・講習会におすすめです

来期に向けてさらなるアピール活動を進める」と方針提案がされ新役員体制とも確認、可決されました。



浜岡裁判第38回口頭弁論後の報告集会